

■ボンベイ海浜計画

かつて美しい景観を誇っていたインド有数の大都市ボンベイの沿岸地域は、この街最大のゴミ捨て場と化し、無計画な商業開発によって荒廃が進んでいた。しかし現在、簡素であるが効果的なプログラムによって、この混雑した都市で唯一の広大なオープンスペースである海岸の復興が試みられている。特に新たな建物を建てずに、まずゴミを撤去し、自然環境をいたわること、次に利用者の活動を制限し、そして建築物の最小限の改修を提案している。

■ラトゥールの震災復興計画

地震によって壊滅的な被害を受けた村のための住宅計画である。耐震性のある住宅の建設は一連の復興計画のなかでも主要な課題であった。この住宅建設を支援する組織ニヴァラ・ハック・スラクシャ・サミティのメンバーが被災者と生活と労働を共にし、理解と親交を深めた上で、討議を重ね、コンセンサスを得ていく民主的な方法で建設プログラムを決定して計画を進めている。

■ボンベイのスラム改修計画「サンガーシュ・ナガール」

ボンベイに暮らす1,000万人のうち800万人は不法占拠者や路上生活者、あるいはスラムの住民であり、劣悪な住宅環境に置かれている。この計画はスラムの住民による住む権利を求める闘いから生まれた。強制立退法が施行され、多くのスラム住民が遠くの土地に追い払われたが、かれらをまとめ、その住宅環境を守るニヴァラ・ハック・スラクシャ・サミティという組織もできた。この組織を中心とした運動の結果、代替地が提供され、ここに新しく「サンガーシュ・ナガール」という住宅建設がはじまった。

Restoration of Bombay's Water-Fronts

■We believe that these water-fronts must remain the collective asset of the city and all its citizens, and a vital, vibrant element in its environmental and social fabric.

■In order to maintain its social significance and to undertake its implementation it has been necessary to organize a Juhu Citizens Forum. The Forum consists of various individuals and organizations living around this area and/or concerned with this social and environmental objective, including of the hotel association, hawkers and vendors association, taxi union, government officials, Municipal Corporation and residence of Juhu.

■We organize regular meetings, discussions and public campaign projecting our proposal and its objectives. The Forum also monitors the various activities on the beach and maintains vigilance against encroachments and other illegal land attempts.

■The first and the most crucial part of our proposal concerning cleaning of the beach and clearing of garbage has been underway since a year with highly successful results. Also due to this movement for restoration, the general safety and security all along the beach has improved.

Rehabilitation Of Village Chincholi-Kate, Latur

■The construction of earthquake resistant housing is a apart of a much larger process of rehabilitation. Our construction programme has been highly successful and enormously accepted by the people only due to dedicated and committed social work in health, economic welfare and education carried out prior to construction.

■Members of our organization—Nivara Hakk Suraksha Samiti stayed in the village for more than three months living and working amongst the victims, thereby closely understanding their problems, needs and their priorities. All decisions were taken in a democratic manner by organizing meetings and discussions and then establishing consensus.

■An extremely close relationship between the organization and people of the village led to the success of the construction programme. The people not only participated through self help in the actual construction but also participated in activities and contributed positively to the process of designs and development.

■The house type, the layout, the colours and the landscape of our rehabilitation and reconstruction scheme is a reflection of the way of life of the village people, reflecting their sensibilities and social ambitions.

Sangharsh Nagar, Bombay

■Sangharsh Nagar is born out of the struggle for housing waged by the people of Sanjay Gandhi Nagar—a slum situated at Cuffe Parade. With the leadership of Nivara Hakk Suraksha Samiti, the people of Sanjay Gandhi Nagar fought their battle of victory. The government conceded to the demands and provided alternate land at Goregaon. Upon this victory, achieved through a protected fight, the people decided to rename their new colony at Goregaon as "Sangharsh Nagar". With this as the background, the nature and objectives of the housing programme can be viewed.

16

ボンベイ海浜計画

【1994年～】

Restoration of Bombay's Water-Fronts.

India, 1994.

ラトゥールの震災復興計画

【1995年】

Rehabilitation of Village Chincholi-Kate, Latur.

India, 1995.

ボンベイのスラム改修計画

サンガーシュ・ナガール

【1994年～】

Sangharsh Nagar, Bombay.

India, 1994.

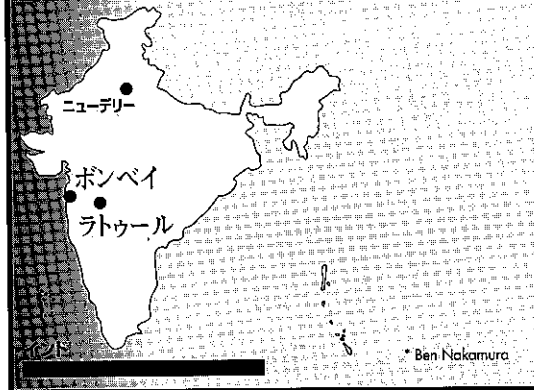
P.K. ダス

P.K. Das



1955年インド、カタック生まれ。1977年ボンベイ大学建築学科卒業。1979年P.K. Das & Associates設立。ニヴァラ・ハック・スラクシャ・サミティという組織を設立し、住む権利を守るために精力的な活動を行っている。

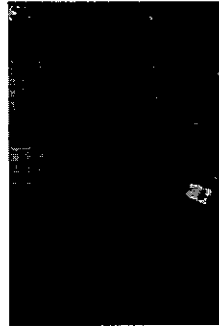
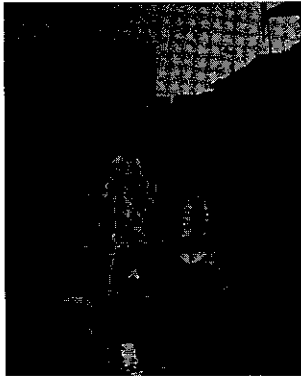
Born in 1955, Cuttack, India. He received a Bachelor's degree in Architecture from Sir J.J. College of Architecture, University of Bombay in 1977. He established his own practice P.K. Das & Associates in 1979.



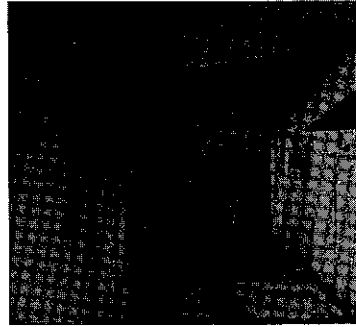
ボンベイの スラム改修計画 「サンガーシュ・ナガール」

[インド、1994年～]

Sangharsh Nagar, Bombay,
India, 1994-



住宅内部



●プログラム

1. ニヴァラ・ハック・スラクシャ・サミティの活動家とサンガーシュ・ナガール代表者による指導グループがプログラムを管理する。
2. 住民の経済状態が困窮することのないように、どんな機関からも借入や寄付を受けつけない。
3. スラムでつくったように住民自身が自分の家を建てる。
4. 建築家を含めた指導グループが配置案を準備する。

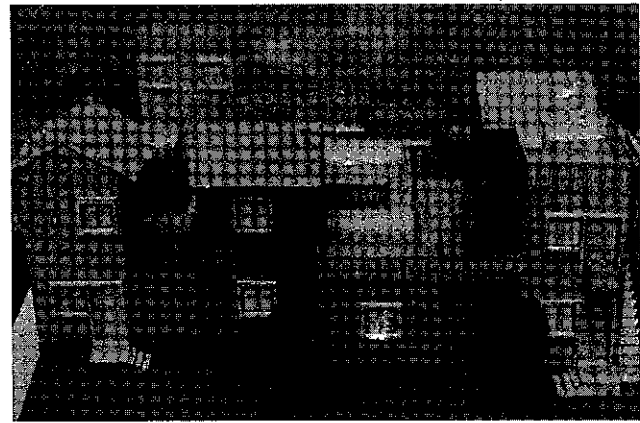
●計画の基本方針

1. 各住戸にはオープンスペースを必ずつくるようにする。ここでは料理したり、洗濯したり、眠ったりなどさまざまなことができる。
2. 住民の共有空間として「チョークス」(広場)をユニットの間の通路に配置する。ここでは子供たちが遊んだり、老人が語りあったりして、コミュニティ内の親交をうながす。
3. 各住戸はそれぞれ個別に建てられるべきである。医療、教育、食事、服飾などに支出した後に資金が残っていたら住宅を建てる。建築後の修繕や維持管理も簡便であり、自力で解決できる。
4. 地滑りに対処して敷地北側の丘に向かってオープンスペースを残す。これが緩衝物となって住宅を保護する。
5. この広いオープンスペースをより有効に使うよう、便所や水道などの共有施設を建てることにする。また樹木を多く植えるようにする。

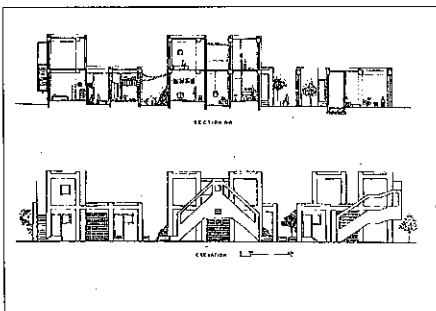


住民どうしが話しあう

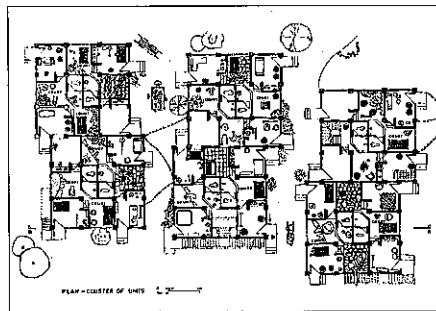
●強制立ち退きに抗議して土地の占拠からはじまったスラムの住民たちによる住む権利を求める長い闘いの結果、代替地がゴアガオンに提供され、そこに住民自身と支援する組織によって新しい住宅地が計画されることになった。かつて石切り場であった敷地の埋め戻しと整地、ごみやがれきの撤去に自治体が協力し、共用の便所や水道もすぐ利用できるよう備えられた。住民の意識を高め、まとめていくのに建築家などが参加するニヴァラ・ハック・スラクシャ・サミティのリーダーシップが発揮された。ひとびとが聞いているさまざまな問題について情報を提供し、自分たちの権利について自覚をうながした。一方、小さいが住民たちの自力で事務所が建てられ、ここで会合を開いてすべての活動を調整したり、資金管理などを行ったりしている。



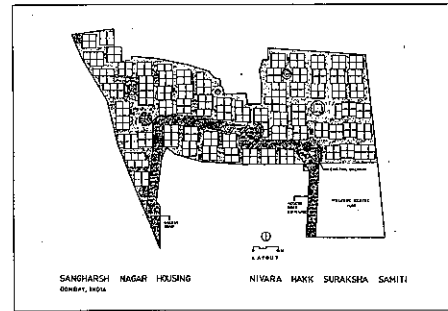
模型



ユニット断面図



ユニット平面図



配置図

16 ボンベイ海浜計画/ラトゥールの震災復興計画/ボンベイのスラム改修計画「サンガーシュ・ナガール」
P.K.ダス

R

混在

O

Multiple Roots
044

O

T

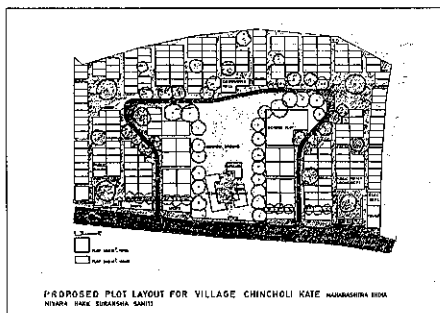
●村の復興計画のうち住宅計画を支援する組織ニヴアラ・ハック・スラクシヤ・サミティは建設を進める以前に、衛生、経済、教育の面でも被災住民を援助する活動を行った。その結果、互いの間に密接な関係が

生まれ、住宅建設プログラムに成功をもたらした。村民は建設作業に参加するだけでなく、設計から実現までのプロセスに積極的に参加し、住居のタイプ、レイアウト、色彩やランドスケープに村民の生活ぶりや感受性が反映されている。

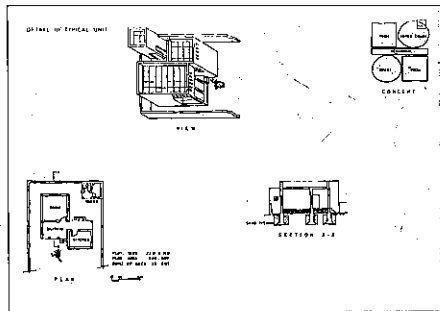
ラトゥールの 震災復興計画

[インド、1995年]

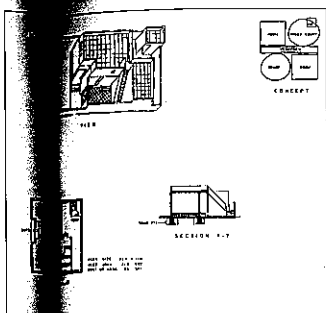
Rehabilitation of Village
Chincholi-Kate, Latur,
India, 1995



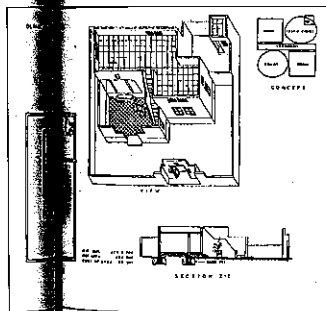
配置図



ユニットタイプ1



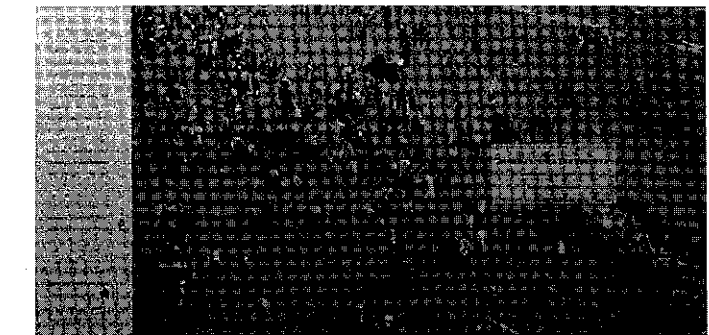
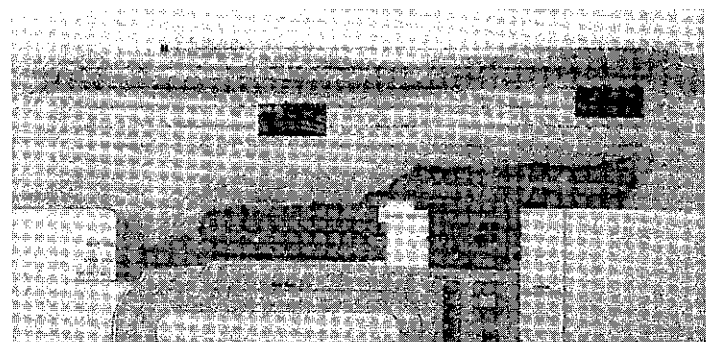
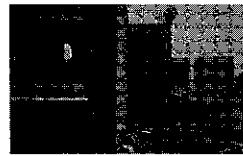
ユニットタイプ2



ユニットタイプ3

●復興のためのプログラム

- 交通渋滞の解消
- 駐車場の整備
- タクシー、バス停の整備
- 公共施設の整備 (公衆便所、公衆電話、街灯、サイン、インフォメーションデスクなど)
- ゴミ箱の設置



ボンベイ海浜計画

[インド、1994年~]

Restoration of Bombay's
Water-Fronts,
India, 1994-

●最初にこの計画が実行されたのは、ボンベイ市内外のさまざまな階級のひとびとに人気のあるジューブ海岸である。社会的重要性を保ちながら復興をかなえるために、ホテル団体、行人団体、タクシー運

転手団体、国家公務員、自治体、住民たちによって構成されるジューブ市民フォーラムを組織し、社会的また環境的な目標を掲げ、定期的に会合を開いたり、キャンペーンを行ったりしている。この計画により、海岸沿いの地域全体にわたって安全性が改善された。

ボンベイの海岸は大規模で密集した都市構造において、活気あるエネルギー溢れる要素であり、すべての市民にとって共有財産としてこれからも永く残されていくべきものである。